



昨年（1988年）の10月19日に何があったか覚えていますか。野球好きな方はもう、おわかりでしょうけど。そうです、あの試合があったのです。パリーグ優勝決定戦。ロッテ対近鉄、ダブルヘッダー（2試合を1日でやること）です。

私は西武ファンなので、この試合に興味を示さないわけがありません。というのも、西武は全日程を終えてしまっていて、優勝するには近鉄が1試合でも負けるか、さもなければ引き分けるしかありません。それを西武ファンは祈っていました。私だって同じ気持ちでした。

第1試合の幕は、午後3時、川崎球場で落とされました。私はしばらく落ちつけない状態でした。とにかくロッテの選手に頼み込むような気持ちでした。何回も何回も電話で情報を聞きました。そのたびに不安がつのってきました。先に点を取ったのはロッテです。でも、私は

「ロッテの打線はしぶといが、投手がアマイ。だから点を入れたからといって喜べない。」

とふだんから思っていました。案の定、ロッテは3点も取ったのに、8回に投手が走者を2人もためこみ（3対1で）近鉄の打者、村上となったわけです。この村上選手、若くて力のあるうえに、チャンスに強いのです。私はいやあな予感がしました。その悪い予感がみごとに当たってしまったのです。つまり、村上選手はタイムリーのツーベース。彼はすごく気合が入っていました。彼の気合いは、近鉄を優勝という夢に近づけました。2点が近鉄に入り3対3。9回も近鉄は2死2塁のチャンス。代打梨田の登場。そして梨田の打った白球は左翼手の手前へ、あえなくポトリと落ちた。このすきを見て2塁走者は本塁へ殺到、外野から返ってきた球はそれて走者はセーフ。勝ち越しの様子は目にうかぶようでした。近鉄は投手リレーで切り札の吉井からエースの阿波野へ。そして、第1試合は4対3で近鉄に勝利が.....。

第2試合。第1試合終了の23分後に開始。私はこのとき思いました。

「最後まであきらめるな。あきらめたら開幕から今まで、いや8年間応援してきた気持ちがすべて無駄になる。」

と。その気持ちが報われたのか、7回終了で3対3。ずっとラジオにつきっきりでした。4対3で近鉄が勝ち越し、近鉄投手阿波野。対するロッテは首位打者の高沢。カウント

2-3で次の球は川崎球場のスタンドへ。阿波野は打球の行先を見たたん、三振を取ったときのあの得意げな表情を失っていました。同点のアーチが高沢によって放たれたのでした。パリーグには、延長で4時間をこえると、新しいイニングに入らない。と、いうルールがあります。、それで、試合を4対4（時間切れ）のひきわけにとどめることになりました。

西武の優勝が決定しました。そのとき、西武ナインは言いました。

「近鉄の選手のためにも、日本シリーズは勝ちます。」

と。私は、優勝を近鉄からゆずってもらったなあと思いました。ロッテの高沢選手はホームランを打ったとき、

「近鉄ベンチやマウンドの阿波野を、なるべく見ないようにベースを回った。」

と、言っていました。高沢選手の近鉄に対する思いやりが伝わってきそうです。その阿波野投手は、

「あのときは何の球を投げて、打たれていましたよ。」

と、のちに語っていました。私もサウスポーなので気持ちはよくわかりました。高沢への2-3からのシンカー（沈む球）が運命の分かれ道になったのです。でも、思いっきり、四球で歩かせても良いから外角低めにすれば打たれなかったのでしょうか。

規定のルールに負けた近鉄と勝った西武。たった二厘差の悲しい勝負の分かれ目に二球団とも考えさせられる何かがあったのでしょうか。でも、近鉄ナインはよくやった。これで野球のすばらしさがわかった。そう思った時、西武が優勝したというのに、私の目から涙があふれ出てきました。今までにない涙に私は、びっくりしましたけど。激しい気持ちのぶつかり合いをこの試合でまざまざと見せつけられました。目の前で胴上げを見たくないロッテ。一方、胴上げしたい近鉄。気持ちという刃がぶつかり合っていたような気がします。翌日、私は冗談まじりに

「ロッテだってやれば引き分けぐらい、できるんだね。」

と言ってやりました。ロッテの執念は、近鉄を優勝させないための爆発力があったのです。

西武は3年連続日本一が、かかっていたし、近鉄は数年ぶりに優勝したかったと思います。10月19日のために私は寿命をへらされる思いでした。でも、こんなすばらしい試合にめぐり会えたことに、今さらながら感謝します。なぜなら、私は「あきらめない気持ち」「お互いを信じ合う関係プレー」「限られた時間の大切さ」を知ることができ

たからです。一生に一度めぐり会えるかわからない試合にめぐり会えてうれしかった。  
と、近鉄やロッテのみなさんへ言いたいです。

この日の8日後に西武は日本一になり、9日後に近鉄は秋季キャンプに入りました。  
運命って紙一重だったんですね。

以上。原文ママ